



ミニガイド No.18

街で繁殖する鳥

街で繁殖する鳥

大阪市立自然史博物館

ミニガイド No.18

大阪市立自然史博物館



カイツブリの成鳥



カイツブリのヒナ



カルガモの親子



バンの巣と親子



長居公園につくられたアオサギの巣



ヨシ原のアオサギの巣



巣材の枝をひろうキジバト



建物につくられたキジバトの巣



枯れた幹に掘られたコゲラの巣穴



壊れた巣の中のコゲラのヒナ



つくりかけのツバメの巣



巣の代用品に入っているツバメのヒナ



ヒヨドリ成鳥



独り立ち直後のヒヨドリの幼鳥



シジュウカラの成鳥



シジュウカラの巣立ちビナ



ナガスクジラの骨のスズメの巣



スズメの巣立ちビナ



給餌を受けるスズメの巣立ちピナ



餌をねだるムクドリの巣立ちピナ



ムクドリ成鳥



ムクドリの巣立ちピナ



ハシブトガラスの巣立ちピナ



ハンガーを使ったハシブトガラスの巣

1. 「街で繁殖する鳥」目次

カラープレート	1
1. 目次	5
2. はじめに	6
3. 街で繁殖する鳥の見つけ方	7
(1) 巣がある場所をさがす	7
(2) 繁殖に関わる行動に注目	7
4. 街で繁殖する鳥たち	8
■カイツブリ	8
■カルガモ	9
■バン	10
■ドバト	11
■キジバト	12
■コゲラ	13
■ツバメ	14
■コシアカツバメ	15
※ツバメ類とヒメアマツバメの比較	16
■ハクセキレイ	18
■セグロセキレイ	19
■ヒヨドリ	20
■モズ	21
■エナガ	22
■シジュウカラ	23
■メジロ	24
■カワラヒワ	25
■スズメ	26
■ムクドリ	27
■ハシボソガラス	28
■ハシブトガラス	29
5. その他の種	30
6. 大阪の街で繁殖する鳥の変遷	34
7. 人工物を利用した街での繁殖	34
(1) 人工建造物への営巣	34
(2) 巣材に人工物を利用	35
8. 大阪の鳥の繁殖情報を募集!	35

2. はじめに

街にいる鳥と言えば、ハトとスズメとカラスくらいしか思いつかない人が多いかもしれません。しかし、街の中でも意外とたくさんの鳥が暮らしています。少し注意すれば、ちょっと街を歩くだけで、けっこう簡単に繁殖している鳥を見つけることができます。繁殖している鳥たちに気づきはじめると、街の中を歩くのが楽しくなること請け合いです。

この本を持ったら、ぜひ街を歩き回り、実際に鳥たちが繁殖している姿を探してみてください。身近な鳥たちの営みを知って、ぜひ鳥の目で、街を見直してみてください。

また、もし大阪府下で鳥が繁殖しているのを見つけたら、ぜひ35ページの要領で、大阪市立自然史博物館までお知らせください。

【この本の使い方】

この本では、大阪の街の中で繁殖している鳥20種を中心に紹介しています。大阪以外でも、国内のたいていの地域では、充分使えると思います（ただし北海道や沖縄は除く）。

街とは言っても、周りに耕作地があればケリやヒバリ、草原があればセッカ、丘陵地の林が残っていればコジュケイやホオジロなどもいることでしょう。しかしこの本で扱うのは、そういった街の周辺にいる鳥は除き、大阪市のような市街化の進んだ都市で繁殖する鳥に限定しました。

「大阪の街での繁殖状況」の記述は、1990年代後半の状況に基づいています。とくに大阪鳥類研究グループが、1997年以降に実施している大阪市内の公園で繁殖する鳥の調査結果を参考にしました。街に住む鳥の状況は、次々と変化しています。近い将来ここに書いた鳥の生息状況は変わってしまうかもしれません。

「5. その他の種」では、現在のごく一部で繁殖しているだけの種や、まだ大阪の街では繁殖していない種を紹介しています。近い将来、こういった種も大阪の街の中で、ふつうに繁殖するようになるかも知れません。

この本で使われている図の縮尺は、同じページの中でも一定ではありません。鳥の大きさについては、記述を参照してください。

【注意】鳥たちにとって繁殖はとても大切で、繁殖中の鳥たちはとても神経質になっています。人がうかつに巣に近づくと、親鳥が巣を放棄したり、巣が捕食者に見つかったりします。また巣の近くに人がいると、親鳥がヒナに餌を運んでこなくなることもあります。鳥の繁殖を探するとき、あるいはもし鳥の巣を見つけても、巣には近づかず、離れた場所からそっと観察するようにしてください。くれぐれも鳥たちの迷惑にならないように注意してください。

3. 街で繁殖する鳥の見つけ方

(1) 巣がある場所をさがす

市街地で繁殖する鳥の巣場所は、樹の上と人工建造物と水辺に分かれます。地上や草の上に巣をつくって繁殖するコチドリやヒバリ、セッカなどは、造成地や草原などにいますが、この本では扱いません。

●主に人家や建造物に巣をかける鳥：

ドバト、ツバメ、コシアカツバメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、スズメ、ムクドリなど

●主に樹に巣をかける鳥：

キジバト、コゲラ、ヒヨドリ、モズ、エナガ、シジュウカラ、メジロ、カワラヒワ、ハシボソガラス、ハシブトガラスなど

●主に水辺に巣をつくる鳥：

カイツブリ、カルガモ、バンなどツバメやコシアカツバメの巣は、建物の目立つところにあるので、見つけるのは簡単です。その他の鳥の巣は、見つかりにくい場所にあるので、親鳥の巣への出入りや巣にいるヒナの声に頼りに探します。

ドバトやスズメ、ムクドリが、建物や電柱などの穴やすき間に入り込んだらそこに巣があると考えていいでしょう。巣材や餌をくわえていることも多く、親鳥が入ったら中からヒナのかぼそい声が聞こえてくることも少なくありません。その他の鳥の場合も、巣へ巣材や餌を運ぶ姿を探すのが基本です。また木の上からヒナのかぼそい声が聞こえて、巣に

気付くこともあります。いずれにせよ、いきなり巣を探すのではなく、まず鳥の行動をよく観察する必要があります。

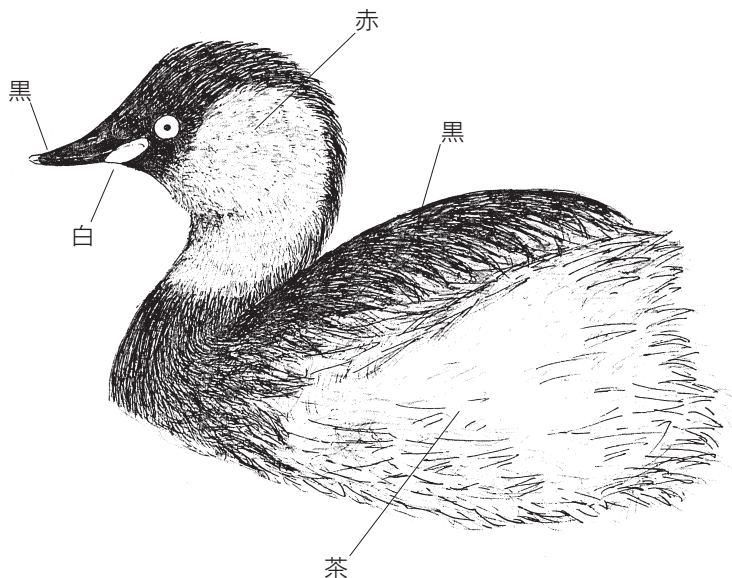
(2) 繁殖に関わる行動に注目

まず鳥が何かくわえて運んでいないかに注意しましょう。巣をつくる時、ハト類やカラス類は木の枝を、ツバメ類はおもに泥を、他の小鳥類は主に枯れ草を運びます。その他の目的で、木の枝や泥、草を運ぶことはないと考えていいでしょう。

またツバメ類、セキレイ類、ヒヨドリ、モズ、エナガ、シジュウカラ、メジロ、スズメ、ムクドリなどの鳥は、ヒナへの餌をくわえて運びます。餌はたいてい昆虫です。運んでいく先を追いかければ、巣も見つかるかもしれません。しかし巣のそばに人間がいると、親鳥が警戒してヒナに餌を運ばなくなる恐れがあるので、餌やりの邪魔にならないように充分注意してください。

ため池や河川で繁殖するカイツブリやカルガモ、バンなどの水鳥は、綿羽のヒナを連れている姿で、簡単に繁殖が確認できます。またセキレイ類、ヒヨドリ、モズ、シジュウカラ、スズメ、ムクドリなども、巣立ったヒナを連れて歩き、餌を与えます。ヒナはかなり大きな声を出して餌をねだるので、親鳥の後をついて行く姿だけでなく、巣立ちヒナの声にも注意しましょう。

カイツブリ



4. 街で繁殖する鳥たち

■カイツブリ (*Tachybaptus ruficollis*)

【特徴】全長約26cm。ほとんど尾のない小さな水鳥。食物である小魚を採るためや、逃げるために、よく潜る。ケレケレケレケレケレケレケレケレといった感じで大きな声で鳴く。ヒナは、黒地にしまの入った顔をしていて、小さい内は親鳥の背によく乗っている。

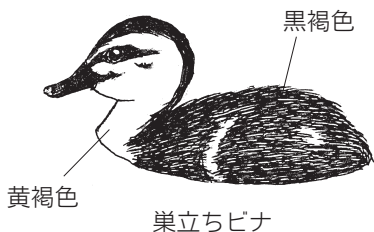
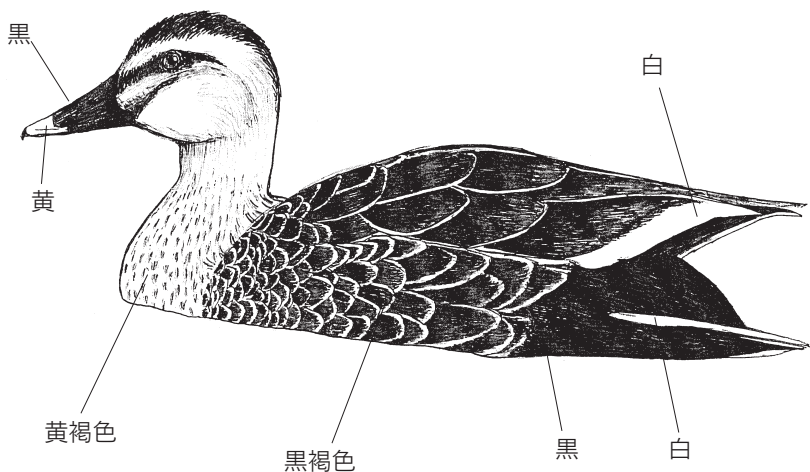
【巣と繁殖期】池など流れのあまりない水面に、水辺の草を集めてきて、浮き巣をつくる。繁殖期は4月から9月と長く、秋から冬に繁殖することもある。



巣立ちヒナ

【繁殖の見つけ方】比較的目立つ場所に浮き巣をつくる。親に給餌を受けるヒナを見つけるのは簡単。ヒナはピツという大きな声をあげるので、声でも見つけることができる。

【大阪の街での繁殖状況】市街地を含め平地から丘陵の池で比較的ふつうに繁殖してる。大阪市内では、淀川、鶴見緑地、南港野鳥園など。



■カルガモ (*Anas poecilorhyncha*)

【特徴】全長約60.5cm。大型のカモ。雌雄はほぼ同色で、黒い嘴の先に黄色い部分がある。ふつう潜らない。グワッグワッとカモらしく鳴く。池に放されたアヒルと交雑することがあり、アヒルとの雑種個体との区別には注意が必要。ヒナは、黄色い綿羽につつまれている。

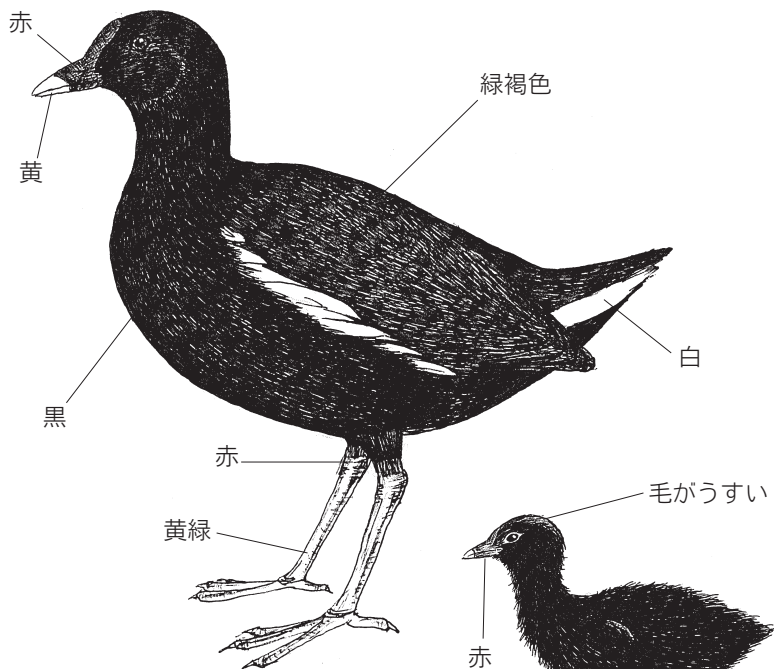
【巣と繁殖期】巣はふつう水辺の地上の草の間に、草を集めてつくる。繁殖期はおもに5月から8月。

【繁殖の見つけ方】親鳥に連れられている綿毛のヒナを見つけるのは簡単。繁殖期に生息していても、繁殖

しない場合がある。アヒルとの交雑をすることがあるので、親鳥が両方とも本当にカルガモか確認する必要がある。

【大阪の街での繁殖状況】市街地を含め平地の池や河川、あるいは埋立地で繁殖。カイツブリやバンに比べて繁殖している池は、あまり多くない。大阪市内では、南港野鳥園、舞洲、淀川、大和川、道頓堀川、鶴見緑地、天王寺公園など。

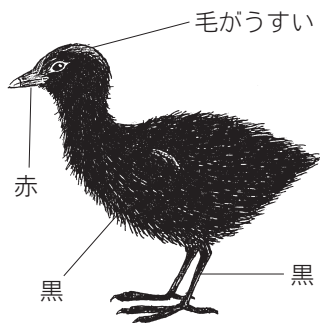
バン



■バン (*Gallinula chloropus*)

【特徴】全長約32.5cm。体はほぼ真っ黒で、嘴の根元は赤く先端は黄色、脚は黄緑色で、根元が少し赤い。尾の下側が白く、尾をあげて歩いたり泳いだりするので、よく目立つ。首を前後に動かしながら泳ぐ。ふつう潜らない。クルルッというような高めの大きな声をだす。ヒナは黒い綿羽でつまれ、赤いくちばしをしている。

【巣と繁殖期】水辺のヨシやガマなどの丈の高い抽水植物の間などに、草などを集めて巣をつくる。繁殖期はふつう4月から7月だが、秋から

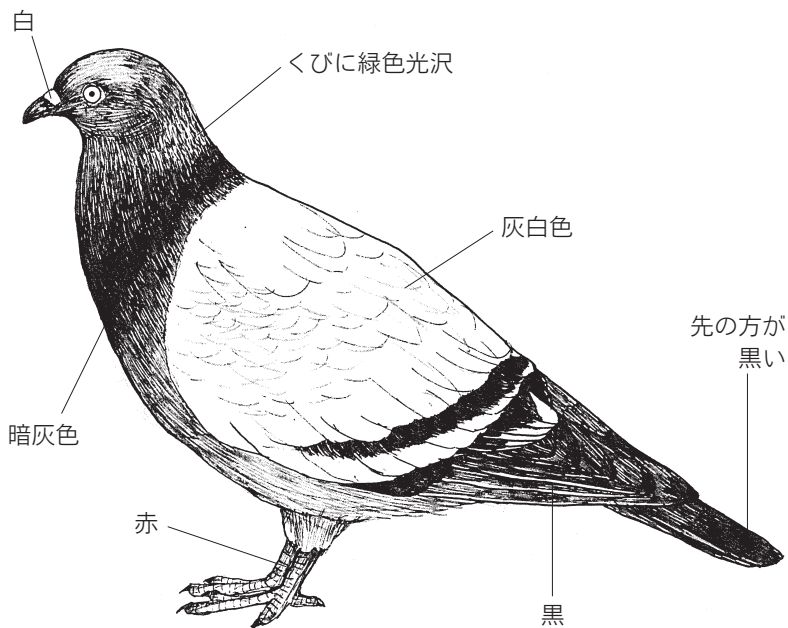


巣立ちヒナ

初冬に繁殖することもある。

【繁殖の見つけ方】親鳥に連れられている綿毛のヒナを探す。ただし草の間に隠れていることが多いので、見つけるのは少し難しい。

【大阪の街での繁殖状況】市街地を含め平地から丘陵の池や河川でふつうに繁殖。大阪市内では、南港野鳥園、淀川、鶴見緑地など。



■ドバト (*Columba livia*)

【特徴】全長約35cm。大きめのハトで、色は灰色と黒色を中心だが、白色や茶色の個体もいる。尾羽は、根元が灰色（淡色）で先の方が黒い（濃色）。公園や社寺、駅などに、群れでいることが多い。以前は、樹にとまることはなかったが、近年はよく樹にもとまる。

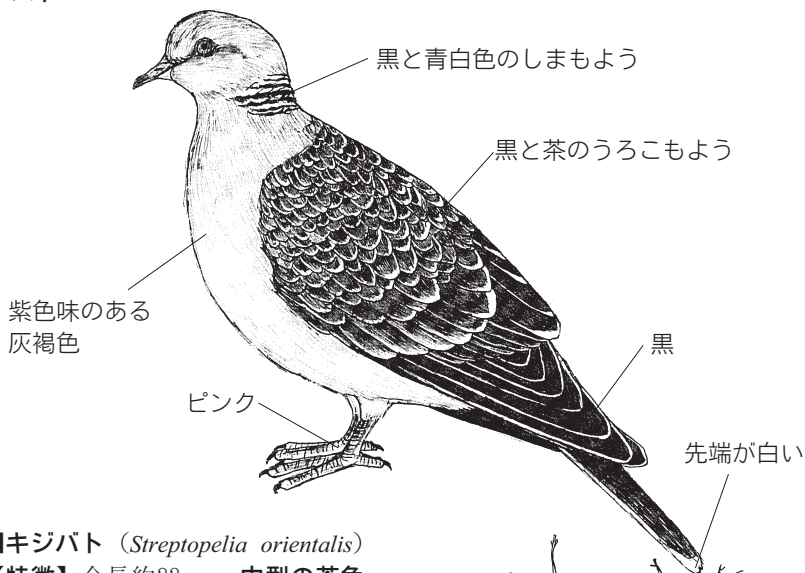
【巣と繁殖期】いろいろな建物、橋、高架などのすき間に、小枝を少し運び込んで雑な巣をつくる。他の多くの鳥と違って年中繁殖するが、3月

から10月にかけてが中心。

【繁殖の見つけ方】巣自体は外から見えない場所にあることが多いので、小枝をくわえて巣材を運んでいるのを見つけるのが、一番簡単。大きくなってきたヒナは、ピーピーと聞こえる高くてか細い声をあげて餌をねだるので、声を頼りにヒナを探すことも可能。

【大阪の街での繁殖状況】市街地ではどこでも繁殖している。大阪市内でも、公園や社寺、駅の周りを中心に、いたる所で繁殖。

キジバト



■キジバト (*Streptopelia orientalis*)

【特徴】全長約33cm。中型の茶色いハト。ドバトにも全体に茶色い個体がいるが、キジバトのくびの両側には白と黒の縞模様があり、尾羽は根元が黒く先の方が白い。ポッポーデッデデーポッポーなどと鳴く。

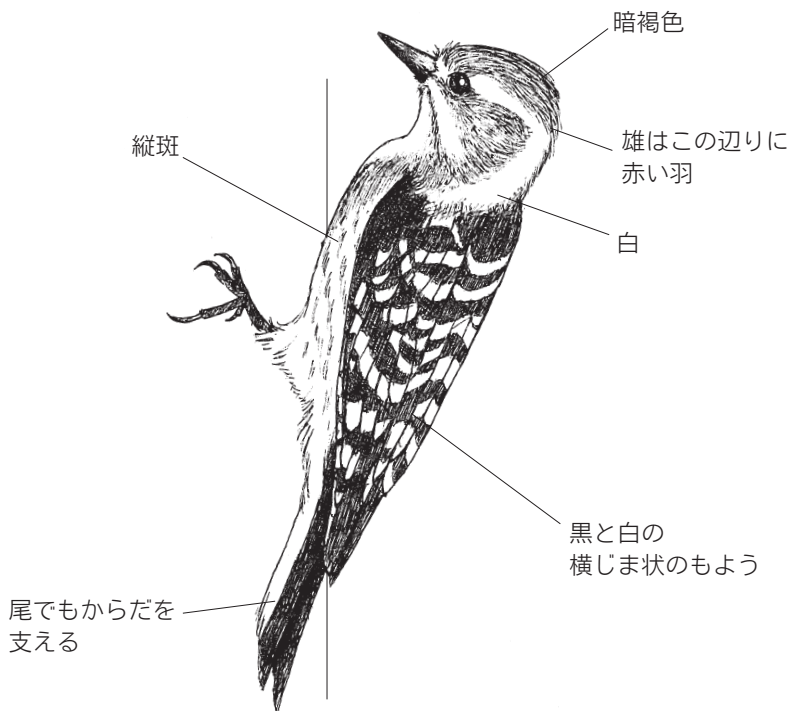
【巣と繁殖期】通常は樹上で繁殖する。多くは、3m～5m程度の高さに、100本～200本の小枝を組み合わせて、直径30cm程度の雑な皿形の巣をつくる。巣材に針金など人工物を使うこともある。街路樹や庭樹をよく利用する。1970年代後半から建物に巣をかける例が報告されるようになり、その後人工建造物での繁殖が増加している。ドバトと同様年中繁殖するが、5月から11月にかけてが中心。

【繁殖の見つけ方】小枝をくわえて巣材を運んでいるのを探す。巣場所



を選ぶとき、巣場所の候補地で独特の低い声で鳴くので、その場所に気を付けておけば巣がつけられるかもしれない。またしばしば古巣を再利用するので、古巣をチェックしていれば、繁殖を始めるかもしれない。

【大阪の街での繁殖状況】市街地で繁殖するようになったのは1960年代と考えられる。現在は多少とも樹がある場所なら、どこでも繁殖している。大阪市内でもいたる所で繁殖している。



■コゲラ (*Dendrocopos kizuki*)

【特徴】 全長約15cm。スズメ位の大きさのキツツキ。キツツキらしく、幹や枝を上へ登っていく。全体に白と黒のまだら模様。雄は、後頭部に赤い羽根があるが、野外で確認するのは難しい。波形に飛ぶ。ギーとか、キィキッキッキなど鳴く。

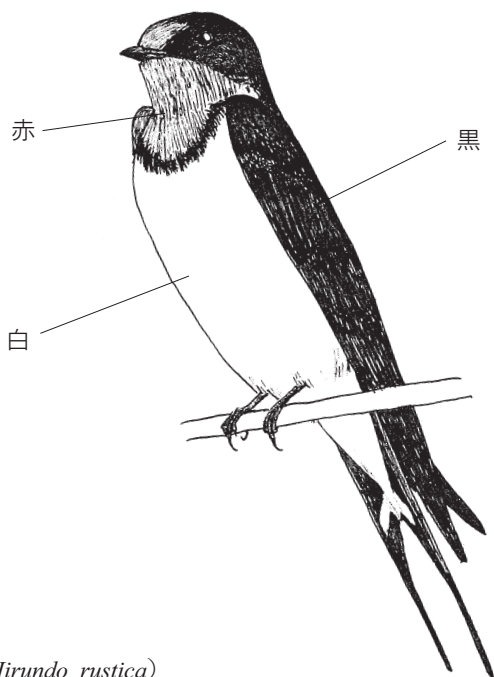
【巣と繁殖期】 枯れた樹の幹や太めの枯れ枝に、穴を開けて巣をつくる。4月から6月頃に繁殖する。

【繁殖の見つけ方】 巣穴掘りや餌運

びなどのために巣に出入りするのを探す。巣らしき穴を見つけておき、そこへの出入りを注意する。あるいは個体を追跡して巣を見つける。

【大阪の街での繁殖状況】 以前は丘陵から山地で繁殖していたが、近年は平地の公園などでも繁殖するようになってきた。大阪市内では、1993年頃に大阪城公園で繁殖したのが最初。その後、鶴見緑地や長居公園などでも繁殖するようになっている。

ツバメ



■ツバメ (*Hirundo rustica*)

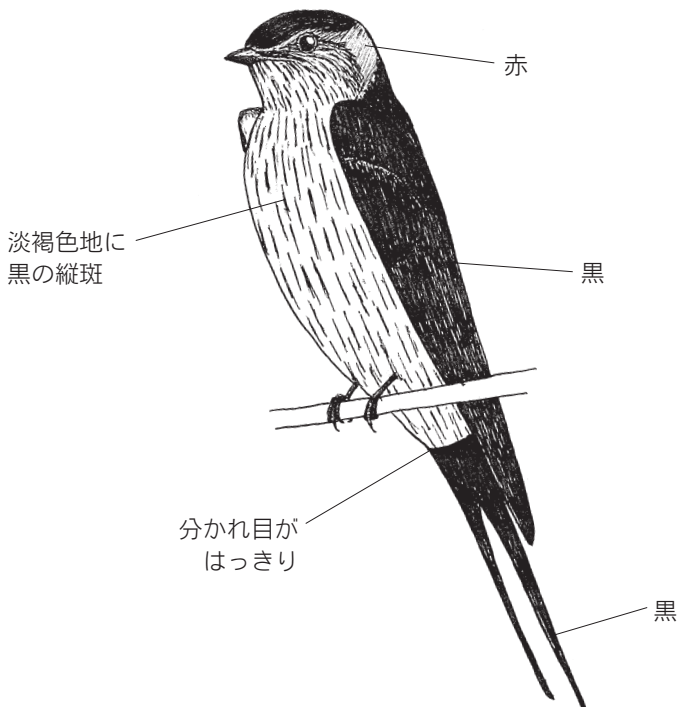
【特徴】全長約17cm。腹は白く、腰が黒い。巣立ちヒナは、尾羽があまり燕尾になっておらず、顔にあまり赤味がない。飛び回って、おもに飛んでいる昆虫を捕食する。

【巣と繁殖期】お椀を縦に半分にして壁に引っ付けたような形の泥でつくった巣を、軒先など、1階の天井位の高さによくつくる。カップ麺の空き容器などを設置しておく、そのまま巣として繁殖に利用することがある。巣が壊れてヒナが落ちた場合も、同じように巣の代わりの物にヒナを入れて、巣のあった場所に設置しておく、親鳥はふつうそのま

まヒナを育てる。4月から7月に繁殖する。

【繁殖の見つけ方】親鳥が座っていたり、ヒナがいる巣を見つけるのは簡単。巣の近くの電線などにとまり給餌を受ける巣立ちヒナも、簡単に見つかる。

【大阪の街での繁殖状況】平地から丘陵に広く分布する。大阪市内でも広く繁殖。



■コシアカツバメ (*Hirundo daurica*)

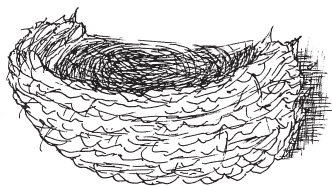
【特徴】全長約18.5cm。胸から腹に縦斑があり、腰が赤い。ツバメよりやや大きい。飛び回って、おもに飛んでいる昆虫を捕食する。

【巣と繁殖期】とっくりを縦に半分にして天井に付けたような形の泥でつくった巣をつくる。入口の細い部分が短く、イワツバメに似た巣をつくることもある。学校や役所や団地などの建物、あるいは橋の下に巣をかける。どちらかと言えば、ツバメよりも高い場所を選ぶ。おもに5月から8月に繁殖する。

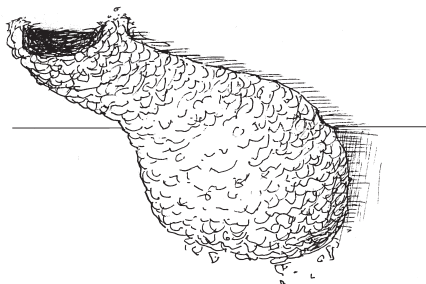
【繁殖の見つけ方】独特の形の巣を見つけるのは簡単。古巣が長い間残るので、巣への出入りを確認する必要がある。抱卵中は、巣への出入りがほとんどないので、繁殖の確認は難しい。ヒナは大きくなってくると、巣の入口から顔をのぞかせるので、入口をチェックする。

【大阪の街での繁殖状況】丘陵や山間部、山に近い平地で繁殖。大阪市内では、1994年に鶴見区で繁殖した例があるが、その後は継続していない。その他に近年の大阪市内での繁殖記録はない。

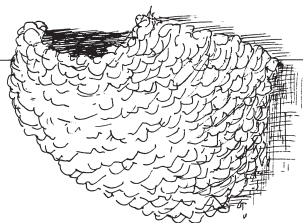
ツバメ類の巣



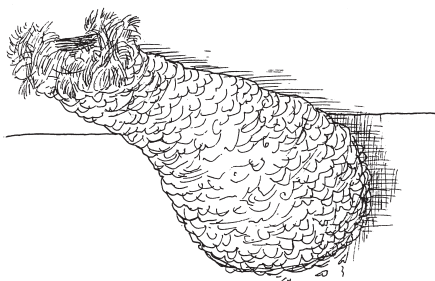
※ツバメの巣：皿状。



※コシアカツバメの巣：ふっつう細長い入口がある。



※イワツバメの巣：コシアカツバメの巣に似ているが、入口は細長くはのびない。時として、入口が横に拡がり、ツバメの巣に似ていることもある。



※ヒメアマツバメの巣：コシアカツバメの古巣を利用し、入口に羽毛をつける。

※ツバメ類とヒメアマツバメの飛んでる姿の比較

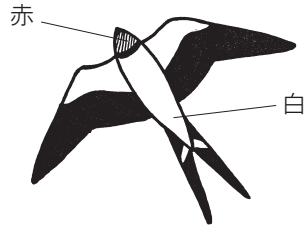
背面

腹面

ツバメ



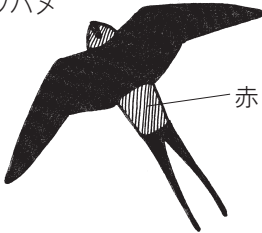
黒



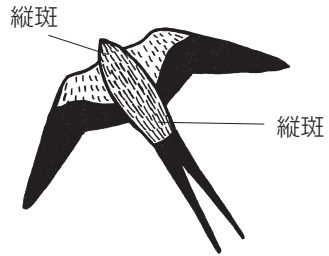
赤

白

コシアカツバメ



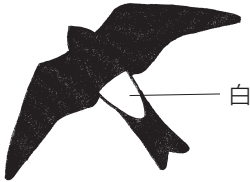
赤



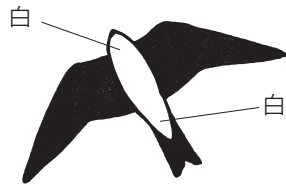
縦斑

縦斑

イワツバメ



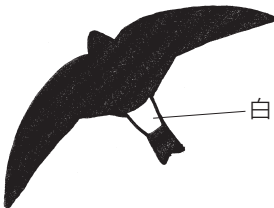
白



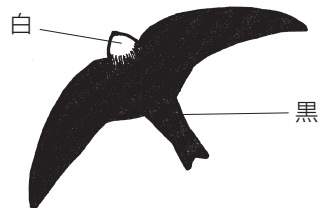
白

白

ヒメアマツバメ



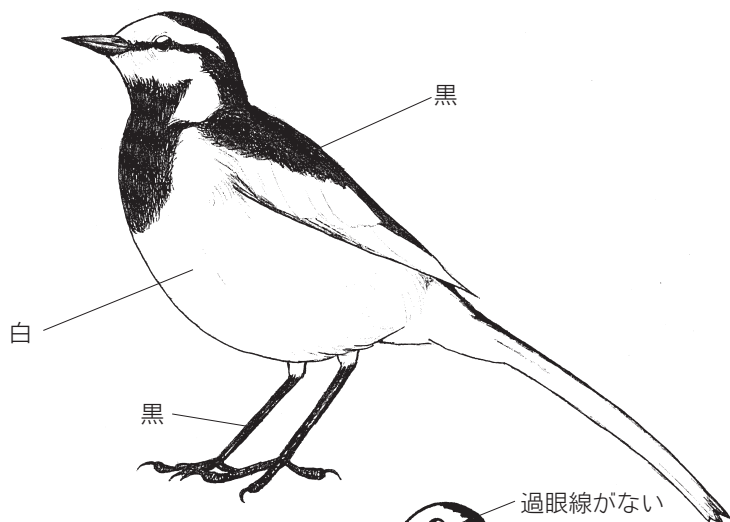
白



白

黒

ハクセキレイ

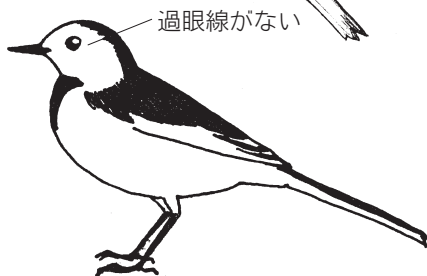


■ハクセキレイ (*Motacilla alba*)

【特徴】全長約21cm。白と黒の尾の長い鳥で、地上を歩いていることが多い。目を通る黒い線（過眼線）が特徴。過眼線がない亜種ホオジロハクセキレイの大阪での繁殖例もある。波形に飛ぶ。尾をよく上下に振る。チュチュッ、チュチュッと、2声ずつ比較的澄んだ声で鳴く。巣立ちビナは親鳥の黒い部分を、灰色にした感じ。

【巣と繁殖期】工場や倉庫などの建造物のちょっと隠れたすき間に、枯れ草などを集めて、浅いお椀形の巣をつくる。5月から7月頃に繁殖する。

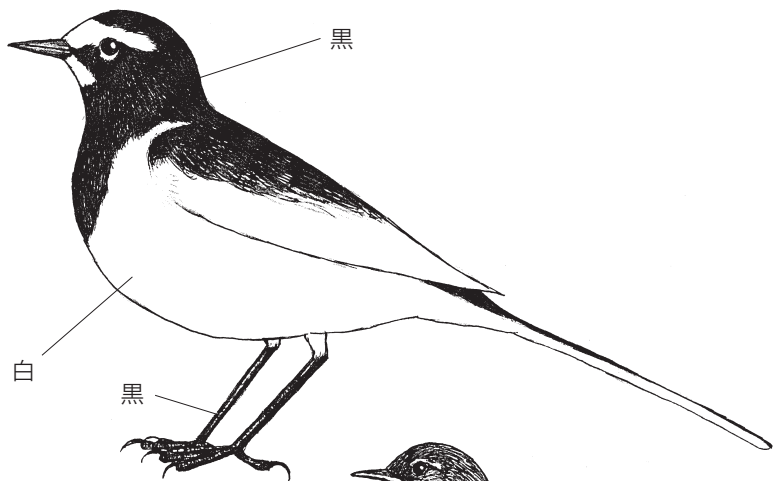
【繁殖の見つけ方】巣材である草や餌を運んでいるのを見つかることもできるが、巣立ちビナを連れているのを見つかる方が簡単。巣立ちビナだけでは、セグロセキレイとの区別



ホオジロハクセキレイ

が難しいので、親鳥の給餌を確認する必要がある。

【大阪の街での繁殖状況】かつては冬鳥だったが、1983年に大阪府下で初めて、忠岡町と堺市で繁殖が確認された。当初繁殖は湾岸部が中心だったが、近年は内陸にも拡がっている。大阪市内では、1980年代半ばに南港で繁殖したのが最初で、現在は埋立地や淀川、大和川、住之江公園などの周辺で繁殖。



■セグロセキレイ (*Motacilla grandis*)

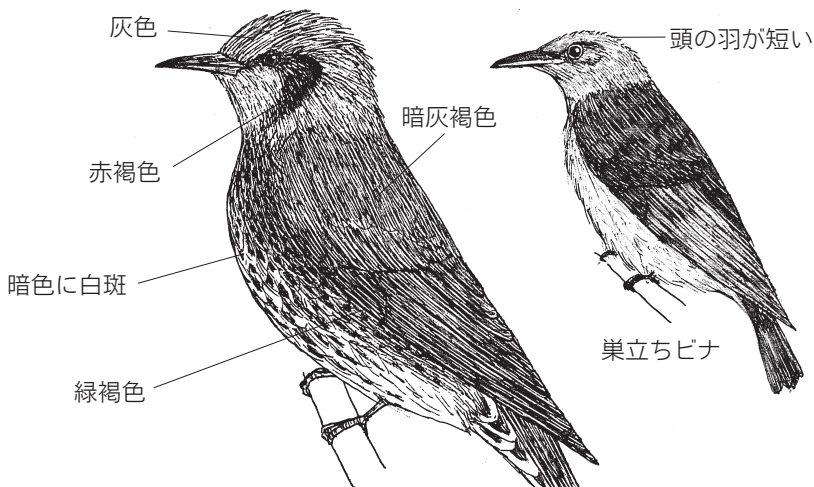
【特徴】全長約21cm。白と黒の尾の長い鳥で、地上を歩いていることが多い。ハクセキレイとの違いは、頭部が黒っぽく、目の上を通る白い線（眉線）があること。波形に飛ぶ。尾をよく上下に振る。ジー、ジーと、比較的濁った声で鳴く。巣立ちピナは親鳥の黒い部分を、灰色にした感じ。

【巣と繁殖期】工場や倉庫などの建造物のちょっと隠れたすき間に、枯れ草などを集めて、浅いお椀形の巣をつくる。繁殖期はハクセキレイより早く始まり、3月から7月頃。

【繁殖の見つけ方】巣材である草や餌を運んでいるのを見つけることもできるが、巣立ちピナを連れているのを見つける方が簡単。巣立ちピナだけでは、ハクセキレイとの区別が難しいので、親鳥の給餌を確認する必要がある。

【大阪の街での繁殖状況】平地から丘陵、山間部で広く繁殖している。大阪市内では、南港や大阪城公園、長居公園などの周辺で繁殖。

ヒヨドリ



■ヒヨドリ (*Hypsipetes amaurotis*)

【特徴】全長約27.5cm。ハトよりもやや小さく、尾の長い、全身が灰色の鳥。波形に飛ぶ。ふつうは樹上にいるが、近年は地上に降りることも多い。ピーとか、ピーヨピーヨなどと聞こえる声をはじめ、いろいろな声をだす。かなりやかましい鳥。巣立ちピナは、頭の羽が短く、禿げているように見える。

【巣と繁殖期】樹上に、枯れ草などを使って、直径15~20cm程度のお椀形の巣をつくる。モズの巣によく似ている。巣材には、たいていビニールテープが混じっている。近年、人工建造物に巣をかけた例も報告されている。おもに5月後半から7月に繁殖。

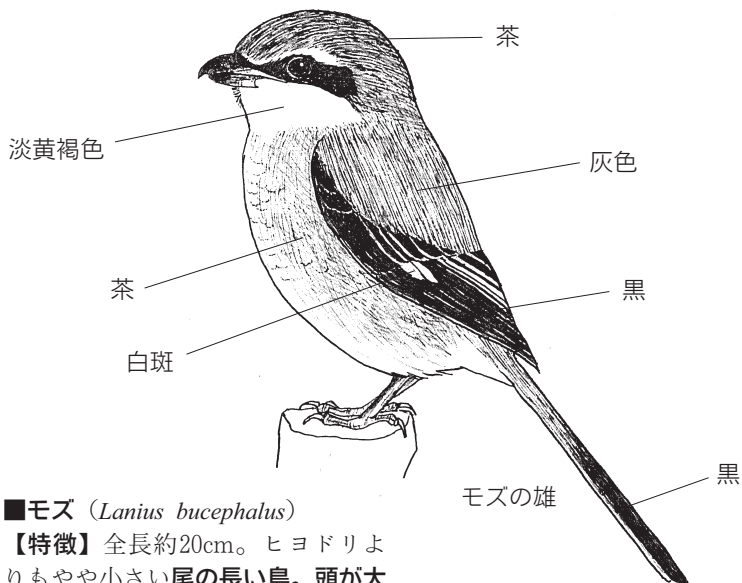
【繁殖の見つけ方】巣材や餌を運んでいる姿、あるいは巣立ちピナを探す。巣立ちピナは、給餌の際、大き



ヒヨドリの巣

な声で餌をねだるので、かなり目立つ。

【大阪の街での繁殖状況】市街地で繁殖するようになったのは1970年代と考えられる。現在は多少とも樹がある場所なら、どこでも繁殖している。大阪市内でもいたる所で繁殖している。



モズの雄

■モズ (*Lanius bucephalus*)

【特徴】全長約20cm。ヒヨドリよりもやや小さい尾の長い鳥。頭が大きく、嘴はするどい。全体に茶色っぽい。とまっている時、尾を回すことがある。オスは目を通る太い黒線（過眼線）があるが、メスの過眼線は目立たない。メスには、翼の白斑もほとんど見れない。樹上にいて、地上に降りて獲物を捕まえ、再び樹上にとまる、といった行動をする。キーとか、キュンキュンとか鳴く。他の鳥の声などの物まねをするので、注意が必要。

【巣と繁殖期】樹上に、枯れ草などを使って、直径15～20cm程度のお椀形の巣をつくる。ヒヨドリの巣によく似ている。巣の高さは2～3m程度が多い。巣材には、たいていビニールテープが混じっている。おもに3月から5月に繁殖。

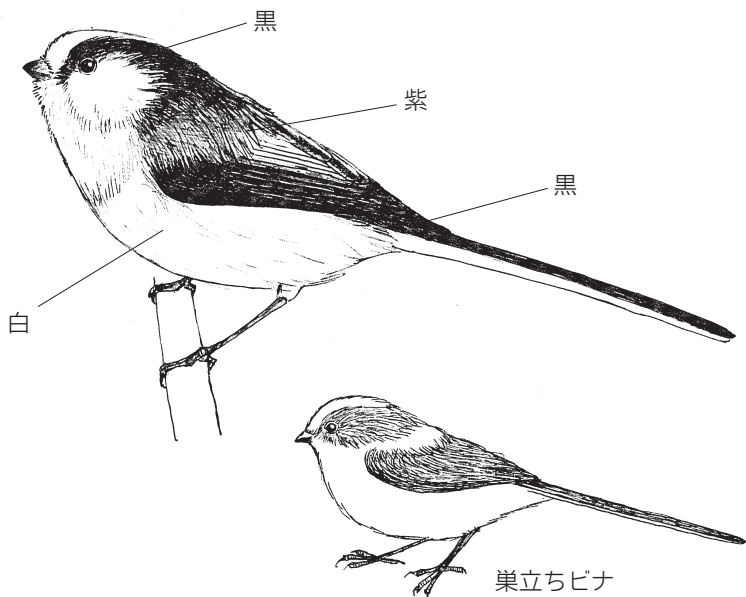


モズの巣

【繁殖の見つけ方】巣材や餌を運んでいる姿、あるいは巣立ちビナを見つける。巣は比較の見つけやすい高さにあるので、巣を探して歩くことも可能。

【大阪の街での繁殖状況】平地から丘陵、山間部で広く繁殖。大阪市内では、大阪城公園や鶴見緑地、長居公園などの公園で繁殖。

エナガ

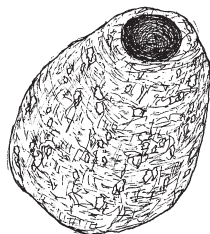


■エナガ (*Aegithalos caudatus*)

【特徴】全長約13.5cm。尾が全長の約半分を占め、体自体の大きさはとても小さい。あまり地上には降りない。ジュリジュリジュリという声の特徴的。巣立ちピナは、親鳥の模様を全体にぼんやりさせた感じ。

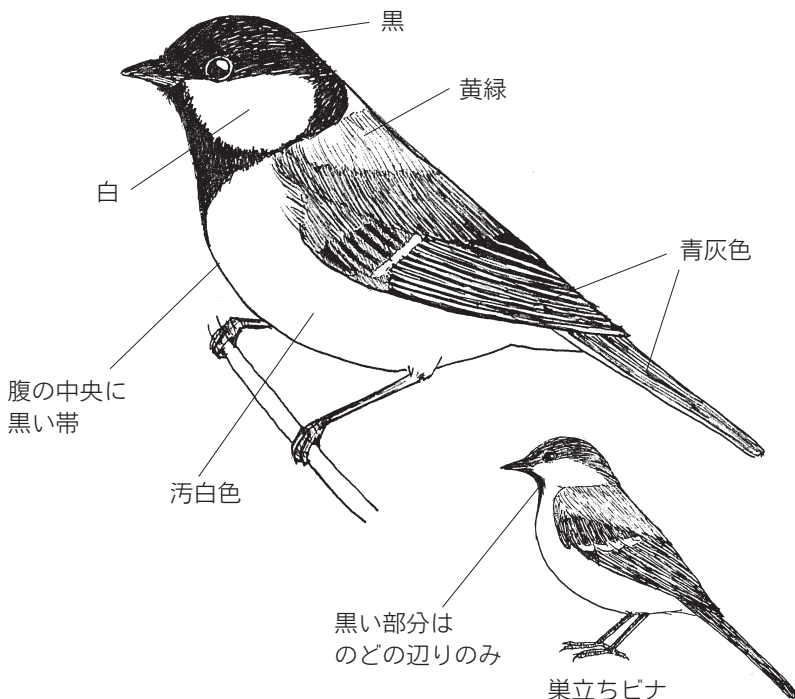
【巣と繁殖期】樹上にコケや羽毛、クモの巣などで、直径15cm程度の少し細長いボール形の巣をつくる。おもに3月から5月に繁殖。

【繁殖の見つけ方】巣材や餌を運ぶのを見つけるか、親鳥を追跡して巣を見つける。あるいは巣立ちピナを連れて、給餌しているのを探す。



エナガの巣

【大阪の街での繁殖状況】かつては丘陵から山地で繁殖していたが、現在は平地の市街地周辺でも繁殖するようになってきている。大阪市内では、1994年に大阪城公園で初めて繁殖した。



■シジュウカラ (*Parus major*)

【特徴】全長約14.5cm。スズメくらいの大きさの鳥。頭は黒く、ほおは白い、背は緑色がかっており、喉から腹にかけて黒い帯がある。雄に比べて雌の帯は細め。樹上にいることが多い。地鳴きではピーーツーとか、ツツジャージャージャーといった声特徴的。さえずりは、ツツピーーツツピーやツツピーーツツピーピーなど。巣立ちビナは、親鳥の模様を全体にぼんやりさせた感じ。

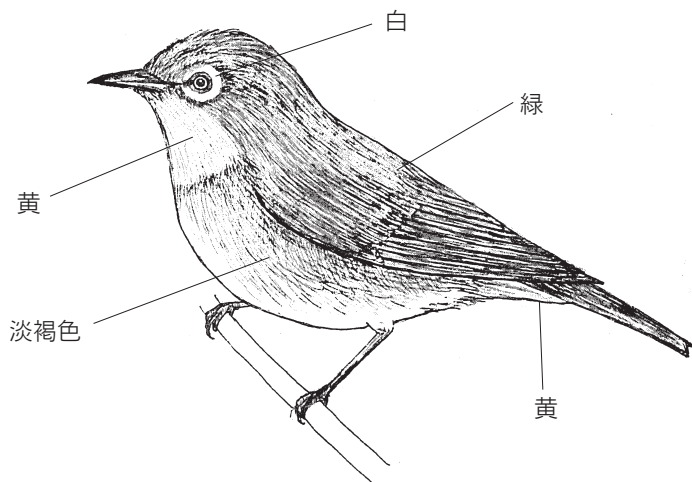
【巣と繁殖期】樹の穴で繁殖するが、自分では穴を開けない。巣箱や人工

物の穴も利用する。おもに4月から7月に繁殖する。

【繁殖の見つけ方】巣材や餌を運ぶのを見つけるか、親鳥を追跡して巣を見つける。あるいは巣立ちビナを連れて、給餌しているのを探す。

【大阪の街での繁殖状況】かつては丘陵から山地で繁殖していたが、現在は平地の市街地周辺でも繁殖している。大阪市内では、1980年代に大阪城公園や南港で最初に繁殖。現在では、長居公園や住吉公園ほか各地で繁殖するようになっている。

メジロ



メジロの巣

■メジロ (*Zosterops japonicus*)

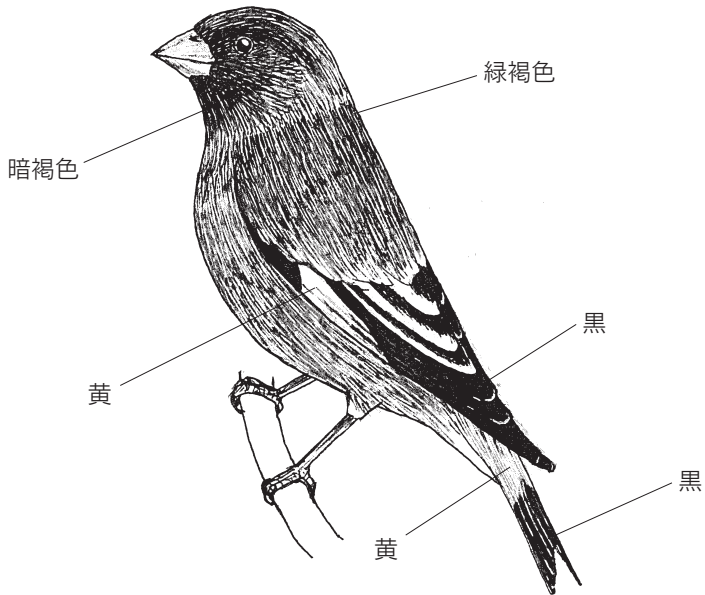
【特徴】全長約11.5cm。スズメよりも小さい鳥。頭から背、尾羽は緑色、喉と尾羽の下は黄色、脇腹は茶色、目の周りが白い。あまり地上には降りない。地鳴きはチーと聞こえる声。さえずりは長く続ききれいな声。

【巣と繁殖期】樹の枝先の二叉の所に、直径10cm程度のお椀形の巣をぶら下げる。巣材は枯れ草が中心だが、しばしばビニールテープも利用する。おもに4月から6月に繁殖。

【繁殖の見つけ方】巣材や餌を運ぶのを見つかる。小さい鳥で、高い場所に巣をつくるので、巣を見つかる

のは難しい。繁殖期に囀っていることから、繁殖を推定することが多い。

【大阪の街での繁殖状況】かつては丘陵から山地で繁殖していたが、現在は平地の市街地周辺でも繁殖している。大阪市内では、1989年に大阪城公園で繁殖したのが最初らしい。その後、市内で繁殖分布は拡がっており、大きな公園だけでなく、小さな公園や庭木でも繁殖するようになってきている。



■カワラヒワ (*Carduelis sinica*)

【特徴】全長約14.5cm。全体に緑色っぽいスズメ大の鳥。飛ぶと翼の黄色がよく目立つ。地上に降りて、草の実を食べていることも多い。飛ぶときはキリキリリとかコロロコロロとか聞こえる声をだす。さえずりはジュイーン。

【巣と繁殖期】樹のかなり高い位置に、枯れ草を集めて、直径10cm程度のお椀形の巣をつくる。巣材にビニールテープが混じることも多い。おもに4月から7月に繁殖する。

【繁殖の見つけ方】巣材を運ぶのを見つかる。小さい鳥で、高い場所

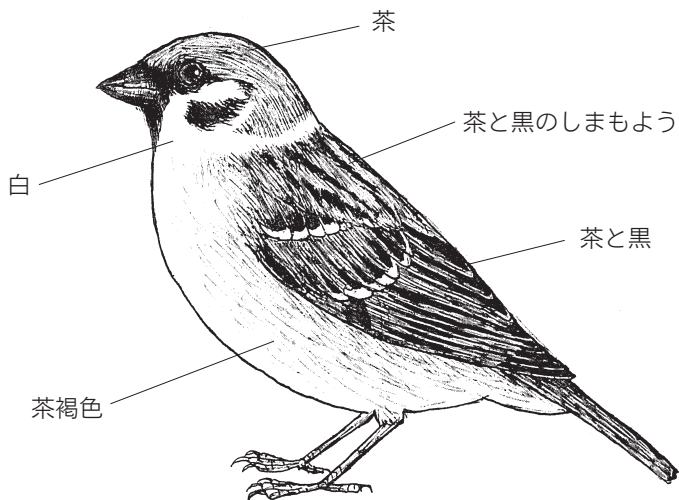


カワラヒワの巣

巣をつくるので、巣を見つけるのは難しい。

【大阪の街での繁殖状況】平地から山地で繁殖している。いつ頃から大阪市内で繁殖するようになったのかよくわからない。現在では、鶴見緑地、長居公園、住之江公園などの公園を中心に繁殖が広がっている。

スズメ



巣立ちビナの頭部

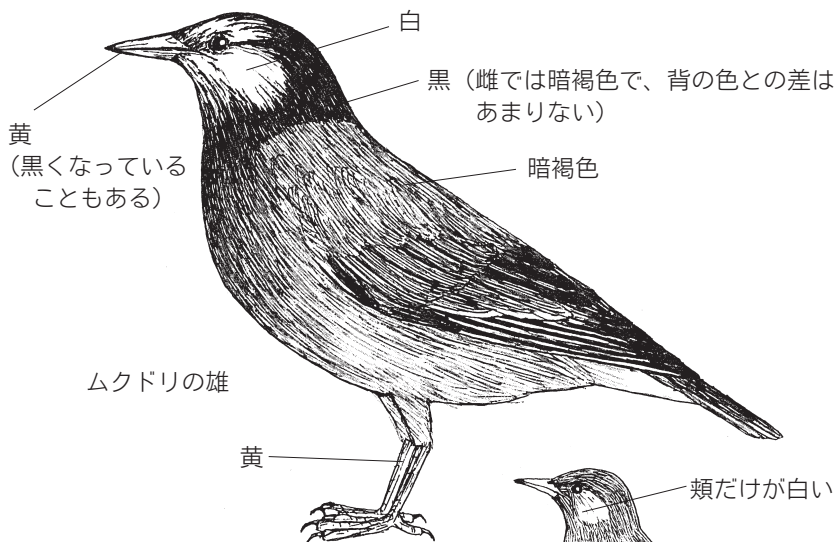
■スズメ (*Passer montanus*)

【特徴】全長約14.5cm。頭は茶色、ほおは白く黒い斑がある。体は全体に茶色っぽいが、よく見ると複雑な模様がある。チュンチュンなどといった声をだす。巣立ちビナのくちばしの両わきは黄色い。

【巣と繁殖期】建物や電柱などの穴やすき間に、枯れ草を運び込んで巣をつくる。巣材には、タバコを包むセロハンなど人工物もよく利用する。おもに3月から8月に繁殖する。

【繁殖の見つけ方】巣材や餌をくわえて、巣らしき穴に入るのを見つける。穴に入った直後、中からヒナの声が聞こえることも多い。また巣立ちビナを連れて歩き、盛んに給餌するので、巣立ちヒナも簡単に見つかる。

【大阪の街での繁殖状況】市街地などの住居周辺でのみ繁殖している。大阪市内でも各地で繁殖。



ムクドリの雄

巣立ちヒナ

■ムクドリ (*Sturnus cineraceus*)

【特徴】全長約24cm。全体に黒色からうす茶色のヒヨドリ大の鳥。くちばしと脚が黄色。飛び立つとき、腰と尾羽の先の白がよく目立つ。地上にいることも多い。ギュルギュルギュルといった声をだす。巣立ちヒナの顔つきは親鳥とまったく異なる。

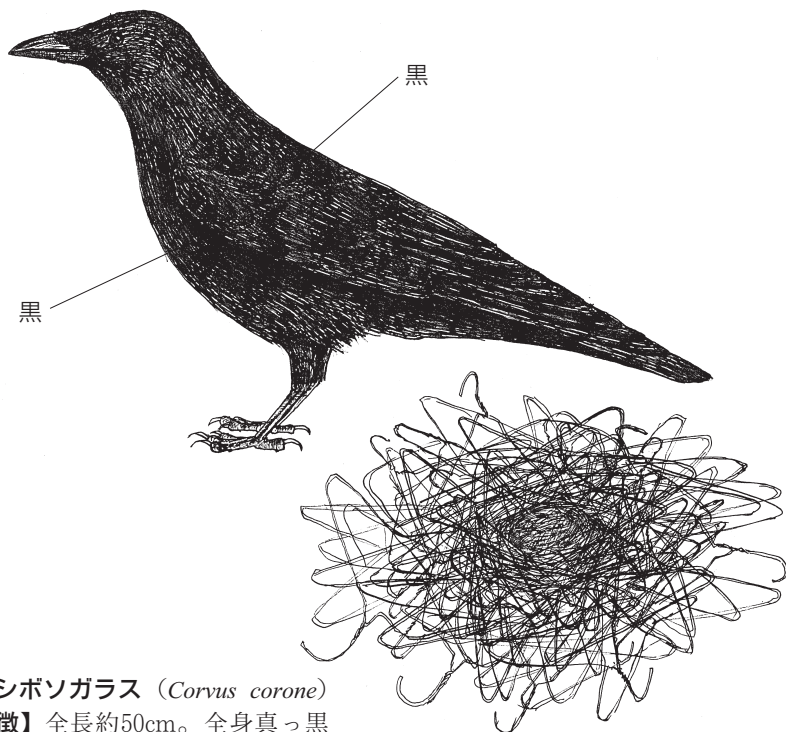
【巣と繁殖期】建物や電柱などの穴やすき間に、枯れ草を運び込んで巣をつくる。巣材には、タバコを包むセロハンなど人工物もよく利用する。おもに4月から7月に繁殖する。

【繁殖の見つけ方】巣材や餌をくわえて、巣らしき穴に入るのを見つかる。穴に入った直後、中からヒナの

声がかえることも多い。また巣立ちヒナを連れて歩き、盛んに給餌する。この時、巣立ちヒナはギャギャギャギャギャギャといった声で盛んに餌をねだるので、とても目立つ。

【大阪の街での繁殖状況】1970年代くらいまで、大阪ではあまり多くなかった。現在は、平地から丘陵の農耕地の周辺や市街地で多数繁殖。大阪市内でも各地で繁殖。

ハシボソガラス



■ハシボソガラス (*Corvus corone*)

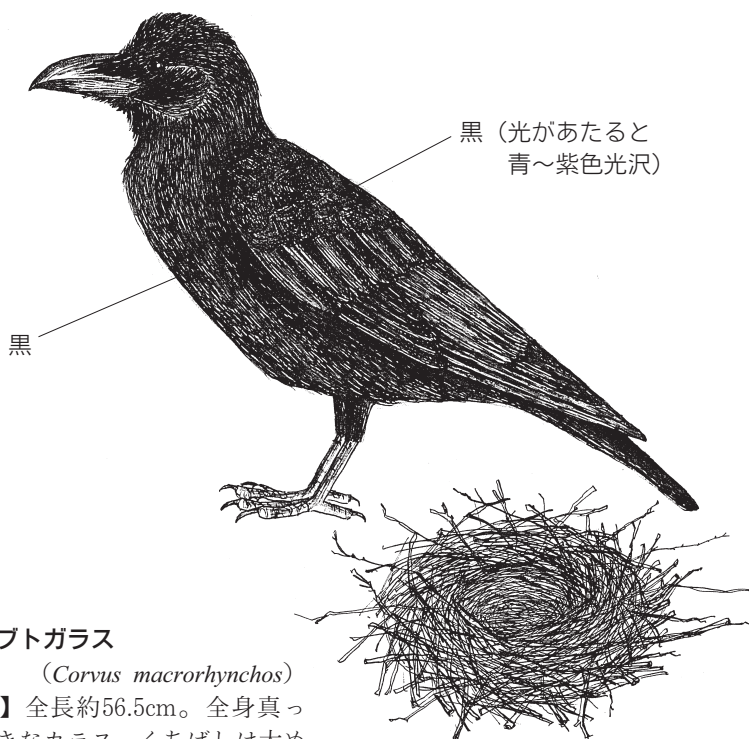
【特徴】全長約50cm。全身真っ黒のやや小さなカラス。くちばしは細めで、額から上くちばしにかけての線がほぼ真っ直ぐ。ガァガァと濁った声を出す、ハシブトガラスと比べると、あまり鳴かない。巣立ちビナも真っ黒だが、口の中が赤い。

【巣と繁殖期】クスノキなど高い樹の上の方（ふつうは10m以上）に、枯れ枝を組み合わせ、直径50cmをこえる大きな皿形の巣をつくる。市街地周辺では、巣材にハンガーを使うことも多い。おもに3月から5月に繁殖する。

ハンガーでできたカラスの巣

【繁殖の見つけ方】巣材である枝などを運ぶ所を見つける。クスノキなどの高い樹の上の巣はよく目立つので、巣自体を探すこともできる。巣の近くの枝にとまって給餌を受けている巣立ちビナも、すぐに見つかる。

【大阪の街での繁殖状況】平地から丘陵で広く繁殖している。大阪市内でも各地で繁殖。



■ハシブトガラス

(*Corvus macrorhynchos*)

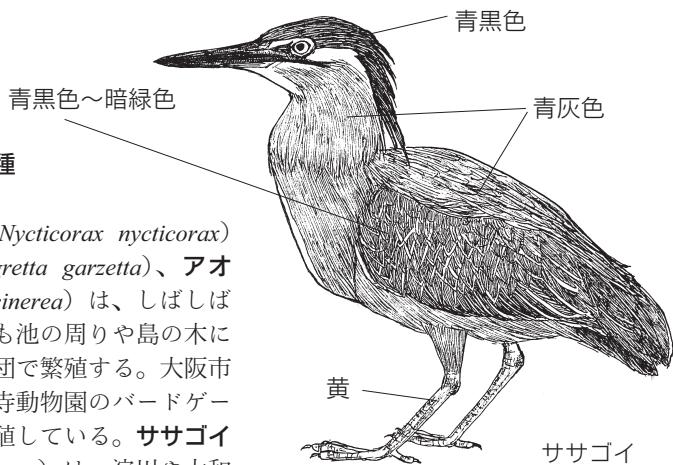
【特徴】全長約56.5cm。全身真っ黒の大きなカラス。くちばしは太めで、額から上くちばしにかけての線がくちばしの根元で大きくへこむ。カッカとすんだ声で鳴くことが多いが、いろいろな声を出し、濁って聞こえる声を出すこともある。巣立ちビナも真っ黒だが、口の中が赤い。

【巣と繁殖期】クスノキなど高い樹の上の方（ふつうは10m以上）に、枯れ枝を組み合わせ、直径50cmをこえる大きな皿形の巣をつくる。市街地周辺では、巣材にハンガーを使うことも多い。おもに4月から6月に繁殖する。

木の枝でできたカラスの巣

【繁殖の見つけ方】巣材である枝などを運ぶ所を見つける。クスノキなどの高い樹の上の巣はよく目立つので、巣自体を探すこともできる。巣の近くの枝にとまって給餌を受けている巣立ちビナも、すぐに見つかる。

【大阪の街での繁殖状況】1970年代くらいまでは、大阪の平地ではあまり多くなかった。現在は、平地から丘陵で広くふつうに繁殖している。大阪市内でも各地で繁殖しており、増加傾向にある。



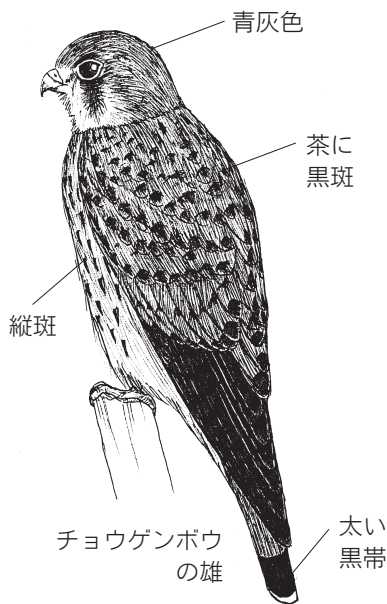
5. その他の種

■サギ類

ゴイサギ (*Nycticorax nycticorax*) と**コサギ** (*Egretta garzetta*)、**アオサギ** (*Ardea cinerea*) は、しばしば市街地周辺でも池の周りや島の木に巣をかけて集団で繁殖する。大阪市内では、天王寺動物園のバードゲージの周囲で繁殖している。**ササゴイ** (*Butorides striatus*) は、淀川や大和川など河川に近い社寺林や街路樹、公園で少数が繁殖している。巣はいずれもキジバトの巣を大きくしたような感じ。アオサギのヒナは、大きな声で餌をねだるので、よく目立つ。

■猛禽類

ツミ (*Accipiter gularis*) は、現在大阪では山地で少数が繁殖しているだけだが、関東では1980年代後半から市街地での繁殖例が知られている。**ハヤブサ** (*Falco peregrinus*) は1993年以降、日本各地の人工物での繁殖が知られ、大阪でも2004年に泉大津市のホテルで繁殖し、その後八尾市でも繁殖。**チョウゲンボウ** (*Falco tinnunculus*) は1980年以降、日本各地で人工物利用の繁殖が広がっている。大阪でも2000年以降繁殖の可能性が報告され、2010年には大阪市内などの複数個所で繁殖が確認された。

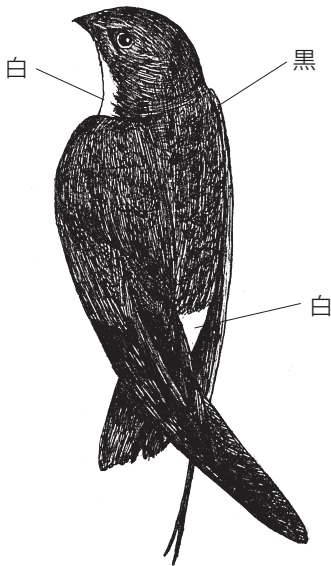


■オオバン (*Fulica atra*)

1985年に大阪府で初めて堺の埋立地と南港野鳥園で繁殖した。その後、各地の池で繁殖するようになっていいる。大阪市内では、南港野鳥園と淀川の城北で繁殖記録がある。今後、さらに増える可能性がある。



オオバン



ヒメアマツバメ

■ヒメアマツバメ (*Apus affinis*)

1980年以降、京都府、奈良県、兵庫県、和歌山県で繁殖が記録されている。大阪府では柏原市と岬町で繁殖が確認されている。主にコシアカツバメ（まれにイワツバメ）の古巣を利用して繁殖する。

■カワセミ (*Alcedo atthis*)

非繁殖期には、市街地の河川や池で普通に観察されるが、土崖など巣穴を掘れる場所のない街では、繁殖は難しいと考えられていた。しかし近年、排水用のパイプの穴での営巣例が増えている。今後、街でも普通に繁殖するようになるかもしれない。

■イワツバメ (*Delichon urbica*)

大阪府で繁殖が確認されたのは、1988年の枚方市が最初。その後、高槻市、河内長野市、茨木市など山間部を中心に繁殖が広がっている。巣場所は河川の橋や鉄道の高架下。関東では都心部での繁殖例があるので、大阪の市街地にも広がるかもしれない。



■イソヒヨドリ (*Monticola solitarius*)

大阪府では、夏期の観察記録は南部の海岸部を中心に比較的多くあるが、繁殖が確認されたのは1986年の高石市が最初。その後、1990年代後半以降、河内長野市や豊能町をはじめ内陸での繁殖記録が増えている。兵庫県や和歌山県など周辺でも、内陸での繁殖が次々と記録されている。おもに人工建造物に巣をかけるので、今後市街地での繁殖がさらに増える可能性がある。





ホンセイインコ

■移入種

人間によって、自然分布の範囲以外に持ち込まれた生物を、移入種と呼ぶ。鳥においても、狩猟用に放されたり、飼い鳥が逃げ出したりして、さまざまな移入種が確認されている。しかしそういった種が、定着して繁殖することはあまり多くない。

セキセイインコ (*Melopsittacus undulatus*) は、野外でよく目にするが、現在のところ近畿地方での繁殖は確認されていない。大阪の市街地周辺で、逃げ出した飼い鳥が繁殖した例としては、ドバトや**ハッカチョウ** (*Acridotheres cristatellus*)、大阪市長居公園や堺市大泉緑地での**コウカンチョウ** (*Paroaria coronata*) の例がある。一度は定着したかに見えた移入種も、その後見られなくなることが多いが、ハッカチョウは豊中市 (1983年)、高槻市 (2003年)、淀川 (2004年以降) と増加傾向にあり、動向が注目される。

東京の市街地では、**ホンセイインコ** (*Psittacula krameri*) が繁殖している。現在のところ、大阪をはじめ近畿地方ではまだ繁殖していないが、注意しておく必要がある。

■アヒルとアイガモ

市街地周辺の池には、しばしばアヒル (**マガモ** *Anas platyrhynchos* を家禽化したもの) やアイガモ (アヒルとマガモをかけ合わせたもの) が放されている。近年、西南日本でマガモの繁殖例が数多く報告されるようになったが、その大部分はこういった放されたアヒルやアイガモの繁殖だと考えられている。

さらにこのアヒルやアイガモは、カルガモと交雑することがある。このことによって、市街地周辺のカルガモ個体群を遺伝的に攪乱している恐れがある。実際に、都市部周辺のため池では、しばしばアイガモとカルガモの交尾や、両種の交雑個体と思われる個体が観察される。

6. 大阪の街で繁殖する鳥の変遷

現在、大阪の市街地で繁殖している鳥の中には、比較的近年、市街地で繁殖するようになった種が少なくありません。たとえばキジバトやヒヨドリは、今では大阪市内のどこでも繁殖していますが、このように市街地で普通になったのは、1960～1970年代のことです。また、ムクドリやハシブトガラスも、かつて大阪の市街地ではそれほど多い鳥ではありませんでした。コゲラ、ハクセキレイ、エナガ、シジュウカラ、メジロ、カワラヒワは、1980年以降に大阪市の市街地で繁殖するようになりました。

都市の市街地で繁殖する鳥のことを、“都市鳥”と呼ぶことがあります。近年、大阪だけでなく、日本各地の都市で、都市鳥の種数が増加しています。ある種の都市鳥化が、ほとんど同時期に日本各地で生じることすらあります（たとえばキジバト

やヒヨドリ）。しかし残念ながら、その原因どころか、都市への進出の過程についても、あまりわかっていません。

今後も新たな都市鳥が現れてくることでしょう。これから大阪の市街地に進出しそうな鳥としては、他の地域ですでに都市鳥化が始まっているツミやホンセイインコなどがあげられます。また人工建造物でよく繁殖するイソヒヨドリも有力候補だと考えています。さらに、清流の鳥のように言われるカワセミにも、市街地のため池や河川で魚を捕り、排水用のパイプの穴を利用して繁殖するなど、都市鳥化のきざしがあります。

このように街で繁殖する鳥は、比較的短い間に次々と変化しており、とても興味深い研究対象です。同時に、身近な街の生態系を考える上でも、その動向には注目していきたいと思います。

7. 人工物を利用した街での繁殖

(1)人工建造物への営巣

街の中に一番たくさんある巣場所は、人工建造物です。さまざまな鳥たちが、この人工建造物に巣をかけて繁殖しています。

現在、ツバメとコシアカツバメは、必ず人工建造物に巣をかけて繁殖しています。むしろ人間がいなかった時代にどんな場所で繁殖していたかという方が謎なくらいです。

ドバトやスズメ、ムクドリも、たいてい人工建造物を利用して繁殖します。また市街地周辺のセキレイ類も、多くの場合人工建造物に巣をかけています。こういった鳥は、もともと樹洞や岩のすき間などで繁殖していました。人工建造物の穴やすき間は、本来の巣場所とよく似ているのでしょ。う。

近年、もともと木に巣をかけていたキジバトとヒヨドリが、人工建造

物に巣をかける例が報告されるようになりました。とくにキジバトは1970年代後半以降、全国的に人工建造物での繁殖が増加しています。

また、もともと自然の岩壁で繁殖していたハヤブサやチョウゲンボウが、ビルや橋梁での繁殖を始めています。とくにチョウゲンボウは、人工建造物へ営巣することによって、市街地周辺を中心に、全国的に繁殖分布が拡大しています。同様に海岸部の岩場で繁殖していたイソヒヨドリも、人工建造物で盛んに繁殖をするようになっていきます。

②巣材に人工物を利用

都市で生活している鳥たちは、巣材としても、さまざまな人工物を利用します。スズメやムクドリの巣材を引っ張り出してみると、タバコを

包むセロファンなど、いろんな人工物が混ざっています。

キジバトの巣材には針金が混じっていることがあり、針金だけでできた巣をつくることもあります。ヒヨドリやモズなどの巣には必ずと言っていいくらいビニール紐が使われています。メジロやカワラヒワもビニール紐をよく利用し、メジロは時としてビニール紐だけで巣をつくることもあります。

カラス類は、(針金でできた)ハンガーをよく巣材として利用します。大阪市内で調べた例では、87個のカラスの巣のうち43.8% (21個)には多かれ少なかれハンガーが混じっており、その内5個の巣では巣材の90%以上がハンガーでした。またハンガー以外にも、針金や紐などの人工物も巣材に使っていました。

8. 大阪の鳥の繁殖情報を募集!

大阪市立自然史博物館では、大阪府下で繁殖する鳥の情報を集めています。都市で繁殖する鳥については、数年単位でさまざまな変化が見られるので、とくに注目しています。

もし大阪府下で、とくに街中で、鳥の繁殖を見つけたら、あるいは記録を持っていたら、①鳥の種類、②観察日、③観察場所(地図上に書くか、詳しく所番地まで書いてください)、④観察場所の環境(海岸・埋立地・河川・池・田畑・住宅地・公園・社寺・山林・その他のいずれか)、

⑤なぜ繁殖していると判断したのか(観察した具体的な行動など)、⑥観察者の氏名・住所・電話番号を書いて、大阪市立自然史博物館の和田までお知らせください(〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-23、E-mail:wadat@mus-nh.city.osaka.jp、FAX:06-6697-6225)。

お寄せいただいた情報は、展示に利用したり、印刷物に引用したり、当館のホームページで公開したりします。その際、情報提供者として名前を公開されたくない場合は、その旨お知らせください。

【参考文献】

- 日本野鳥の会(1978)鳥類繁殖地図調査1978.
山階鳥類研究所(1979)ドバト害防除に関する基礎的研究. 山階鳥類研究所.
中村一恵(1987)キジバトの人工建造物営巣について. Urban Birds 4(3): 57-59.
日本野鳥の会大阪支部(1987)大阪府鳥類目録.
神奈川県立博物館(1988)日本の帰化動物.
日本野鳥の会大阪支部(1990)大阪の野鳥Vol.5. 大阪府.
都市鳥研究会(1992)全国主要都市の都市鳥・1990のまとめ. Urban Birds 9(2): 43-99.
山根茂生(1993)都市公園に増えるカルガモ×マガモの雑種について. Urban Birds 10(2): 57-58.
川内 博(1994)人工物利用のツバメの営巣について. Urban Birds 11(1): 9-12.
唐沢孝一(1995)商店街の日除けテント内で繁殖したヒヨドリ. Urban Birds 12(2): 76-79.
福田道雄(1996)都市緑地で巣箱に営巣したスズメの巣材について再考. Urban Birds 13(2): 113.
元山裕康(1997)都市公園で見られる鳥たち 大阪城公園の野鳥.
和田 岳(1998)カラスの巣材調査の途中結果その3. 大阪鳥類研究グループ会報 (8): 11.
和田 岳(1999)大阪市内の公園で繁殖する鳥の種数について. 大阪市立自然史博物館研究報告 (53): 52-67.

ミニガイド No.18 「街で繁殖する鳥」

著者：和田 岳（大阪市立自然史博物館 動物研究室）

絵：外丸須美乃

編集：大阪市立自然史博物館

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-23

発行：特定非営利活動法人 大阪自然史センター

発行日：2000年3月31日（初版）、

2011年4月30日（改訂二版）

印刷：光栄堂印刷株式会社

©大阪市立自然史博物館，2000